

社会の状況

- ・ Society5.0 時代
- ・ 予測困難な社会
- ・ 学力だけでは評価しない
進路選択

教育目標

自分で考え
友達といっしょに活動し
ふり返りのできる子

児童の実態

- 創造力や企画力がある
- 物事に前向きに取り組める
- △自己有用感の低さ
- △気持ちの言語化

研究主題

自分のよさや可能性に気付く子の育成

～受容的、肯定的な対話と友達との関わりを通して～

めざす児童像

○友達の考えを受け止められる子

○自分の考えをもち表現できる子

本校におけるキャリア教育で育みたい力（4つの基礎的汎用的能力の捉え）

自分で考え気付く力

（自己理解・
自己管理能力）

友達と関わり学び合う力

（人間関係形成・
社会形成能力）

活動をふり返る力

（課題対応能力）

将来を見通す力

（キャリア・プランニング能力）

※今年度は特に、**自**と**友**を重点的に育てていく。授業の中で4つのキャリア教育で育みたい力を見つける。

研究の仮説

児童が学習活動の中で、自分の考えを教師や友達に受容的、肯定的に聞いてもらえれば、自分に自信をもち、自分のよさに気付くであろう。また、そのことがさらに自信につながり、自分の考えを表現することができるであろう。

研究の視点（主題にせまるための取組）

- ・ 肯定的、受容的な聞き方（児童、教師） → 話し合い10のやくそくの重点化
- ・ ねらいに迫らせる発問の工夫 → 教科書の「ことばのたからばこ」の活用
→ 児童の考えを価値付け、つなぐ教師の言葉がけ

峡田小キャリア教育の充実を支える日常の取組 環境設定

- ・ 学期ごとの「学びの道しるべ・学級のあしあと」の活用による進歩や成長の可視化
- ・ 峡田小キャリア・パスポートの作成とキャリア・パスポートの計画的な活用（学級活動（3））
- ・ 学んだことをふり返り、生活に生かせる「道徳の木」の掲示
- ・ キャリア・カウンセリングの実践（運動会、音楽会ノート）
- ・ 互いを認め合う交流活動（行事後の異学年交流感想カード）
- ・ 子供たちの自主性・主体性を生かしたキャリア教育の要となる「特別活動」の充実

